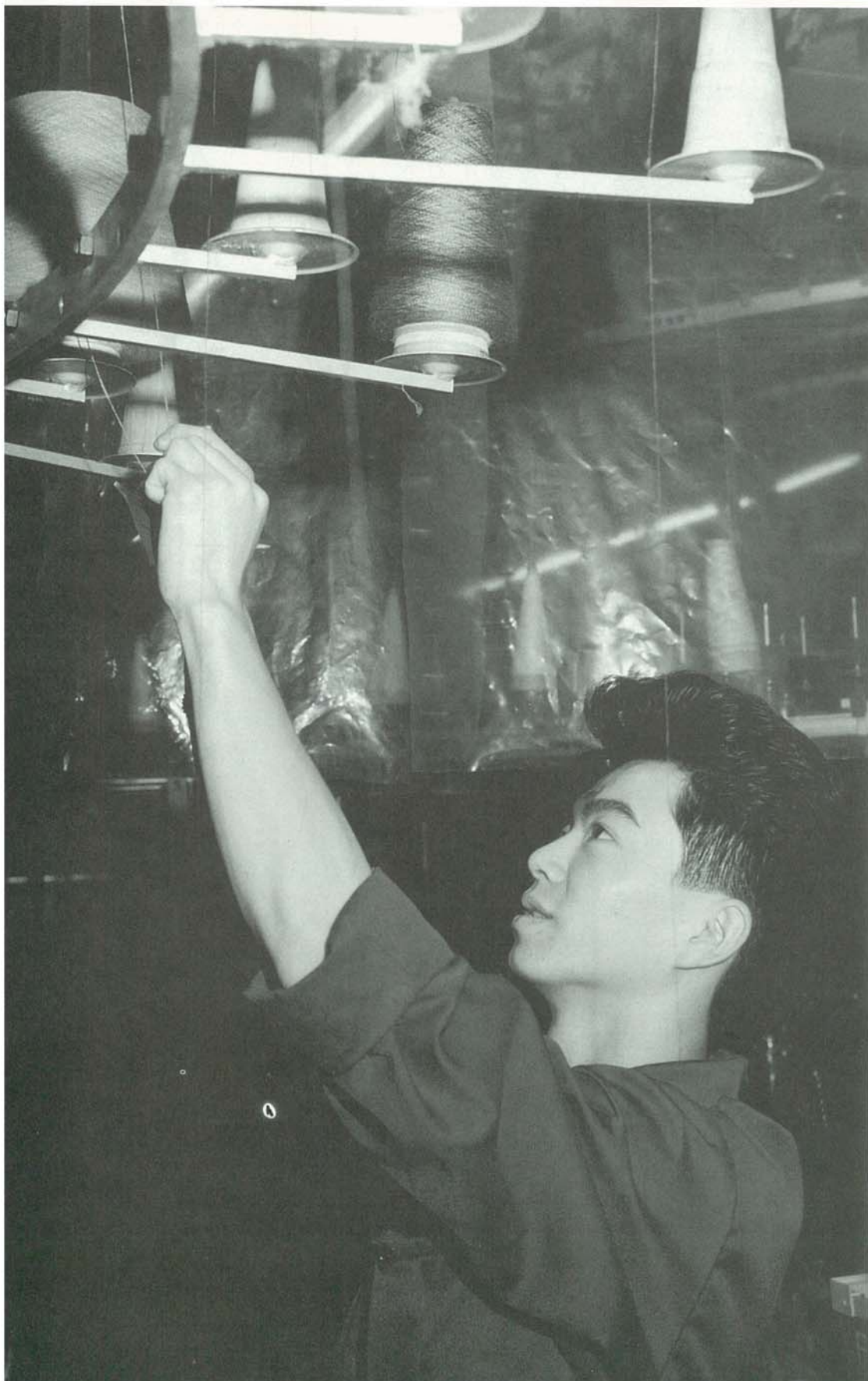


広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

2 1992
FEB.
月号
NO.423



シリーズ “働く”

ニット製品に情熱もやす新成人

「今織り込んでいるのは春、夏物の紳士用セーターですが、もう今年の秋、冬物も織り始めています」と季節を先取りした仕事に励むのは、鈴木幸雄さん（19歳・元町）。

彼は、地元の高校を卒業し（株）マイニットに

就職。編み立て部門で丸編み機五台を操作するオペレーター（運転者）だ。「これから、編み機もコンピュータの時代。もっと勉強して、どんな柄でも正確に素早く入力できるようにになりたい」と意欲的な新成人だ。

座談会出席者



倉澤美津子さん
(前田沢)



榊 元國さん
(大谷四)



白田 和行さん
(栗木沢)



小林 久さん
(夏草)



布施 光子さん
(助ノ巻)



司会: 西沢敬子広報委員
(西原)

ゆたかな生活を求めて

「ターナー者からみた田づくり」

東京への一極集中は依然として続いています。何がそんなに魅力的なのでしょう。情報の量や選択の幅、交通機関の発達、遊び、イベント……など。しかし、人間の生活の場としてみたとき都会は本当に暮らしやすい所なのでしょうか。都会生活を経験し、「ターナー」して来た働きざかりのみなさんにお集まりいただき、今問われている「ゆたかさ」やこれからの「町づくり」について語り合っていました。

情報の豊富な 都会生活

■司会 今日には都会の生活を経験し、現在朝日町にすんでいらつしやる皆さんにお集まりいただき、これからの「町づくり」について語り合っていました。初めに都会の生活を振り返ってどう感じていらつしやいますか。

■白田 わたしは神奈川で暮らしたことがあるのですが、文化的なイベントや催しはたくさんありますし、いつでもどこでもやっていました。でも、実際はでかけて行く機会がなかったですね。お金と暇があれば楽しいところですが、なかなかそうはいかないのが現実だと思います。田舎では催しの絶対数は少ないのですが、気に入ったものは逃さず見るようにしています。こ

ちらに帰ってからのほうが、そういう意味では充実しているかもしれません。

■榊 わたしは情報の量が違うと思っています。東京は昼寝をしている時でもどんどん新しい情報が入ってくるのですが、こちらでは、自分から積極的に求めて行かないと情報は入ってきません。しかし、それがかえって楽しいということもあります。

■倉澤 都会では余暇時間を利用して美術館や博物館に行くとしたら、いつでも行けますね。ところが、こちらは交通手段が車だけということで気軽にでかけられないので、少し不便を感じます。それから、ショッピングを楽しむなどということも少なくなりました。

■小林 都会は遊ぶ場所が多いですね。夜にしても気軽に飲みに行けましたからね。こちらでは、飲みに行けばほとんどタクシーを利用しなければならぬので、金銭的負担が大きいです。■布施 榊さんがおっしゃったように、都会は情報の量が多いと思います。しかも、選択の幅があるということを感じます。例えば、子供の習い事にしてもこちらでは、塾の種類はそろば

が、都会では同じ習字にしても、に合う先生を選択することができいろいろな先生から自分の好みきることです。

田舎は何かと干渉したがる

■司会 都会の魅力についてお話いただきましたが、昨年の十一月に経済企画庁が発表した国民生活白書によると、総合的豊かさ指標では東京より山形の方が高くなっているようです。実際に都会と朝日町の生活を体験して、その辺はどう感じていらっしゃると思いますか。

■白田 都会の電車による通勤ラッシュはひどいですね。女性はとても大変だと感じました。■倉澤 都会の賃金はこちらに比べて確かに高いです。でも、支出のほうも多いように思えます。朝日町に来て感じたのは、

生活全般を考えると都会よりは生活がしやすいということです。■榊 東京では2DKの賃貸マンションに住んでいましたが、家賃が月八万円、駐車料金が二万円もかかっていました。

■小林 わたしは会社の社宅に住んでいたし、会社も自宅の近くだったので居住空間や通勤の大変さは感じませんでした。こちらに来て感じたのは、自然がすばらしいということです。

■布施 朝日町の人は親切だと思います。東京では自分のことだけで他人への思いやりの心などというものは感じられませんでした。

生活の場と働く場を分けて考えよう



白田 和行さん（会社員・37歳）

会社の関係で鶴岡市に9年在住。その間、神奈川県へ単身赴任を経験。3年前栗木沢へ帰郷。7人家族。

でした。ただし、こちらでは少し他人の生活に干渉し過ぎるようには感じますね。わたしは専業主婦ですので、特異な存在に見えるようで、いつもだれかに監視されているような感じをもったことがあります。

■白田 そういうことはあるかも知れませんがね。おばあちゃんたちは隣近所付き合いを大切にするあまり、身近な人の言動が話題になるのだと思います。今の若い奥さん方にとっては少し煩わしいことだと思っています。

■倉澤 なぜ、近所の噂話が主になるのかという話題が乏しいからではないでしょうか。趣味を楽しんだり、グループで何かをやっていたらそんな話は話題にならないように思います。わたしは現在、パッチワークを気の合う仲間とやっています。が、人の噂話をするようなことはないですね。もっぱらそのパッチワークの話で盛り上がっています。

■榊 わたしの妻は東京生まれの東京育ちなもので、こっちに來たばかりのころは、方言を理解できなくてとても困ったようでした。方言が理解できないと話にも加わることができず、ストレスがたまったようでした。それから、子供が大変でした。



布施 光子さん（主婦・37歳）

大江町生まれ。ご主人の勤務関係で水戸市3年、福島市に4年在住。6年前朝日町へ。6人家族。

だれにでも親切的な町民性

「ごみを投げでこい」と言ったら捨てないで本当に投げてしまったということがありました。また、ちょうどこっちに帰って來たのと、二番目の子供が言葉を覚える時期がかちあってしまった。言葉が混乱してしまいました。そのため、保育園に通園している時に言葉の教室に通わせたいという経験があります。

■小林 わたしの子供の場合も言葉のことで一時登校拒否になったことがあります。

自然の中で落ちついた生活

■司会 都会の通勤や住宅については、田舎で想像する以上に大変なようですが、こちらの生活に慣れるまでも、皆さんそれぞれ苦労していらっしゃるようですね。

短い方で三年、長い方で八年

ぐらいになるようですが、朝日町の生活にもだいたい慣れて、町の良さもだいぶ分かってきたのではないのでしょうか。

■倉澤 人間関係で少しわずらわしい面もありますが、朝日町の人は親切ですね。わたしがパ



意見が出された座談会

ツチワークに使う古い布がほしいとある方に話したところ、その方が方々探し回って、たくさん見つけてくださったことがありました。そういうことは到底東京では考えられませんね。

それに、わたしは東京で暮らしているところから、いつかは豊かな自然の中で生活したいと考えていましたので、こちらに帰って来て本当によかったと思っています。

■白田 わたしの趣味はスキーとテニスですが、今の季節はスキーですね。以前は蔵王に行っていたんですが、自然観ができてからは、ほとんど自然観に行くようになりました。何といっても蔵王より近いし、料金的にも安いですね。それに最近ネームバリューがでてきたようで、会社の同僚や、山形の友人たちと自然観で出会うことがあります。そういう意味では朝日町は、わたしの趣味を楽しむ施設も近くにあるし、自慢できるものもできて、結構快適な所だと感じています。

■小林 仕事の面を考えてみると、都会では時間とノルマに追われる毎日ですよ。それが田舎に来て感じたことは、職種にもよるかもしれませんが、こちらの人はのんびり働いているという事です。よくいえば、ゆとりをもって働いている。悪くいえばだらだらして仕事の密度が薄いとでもいうことになるでしょうか。そういうことも賃金に影響しているように思います。

でも、少々賃金が安くとも緑豊かな自然の中で暮らしていると、精神的イライラがなくなり直りました。

■榊 帰って来てよかったことは、子供達がイナゴ採りをしたリセミを捕まえに行ったり、じ

地の利を活かした町づくり

■司会 質金的豊かさでは確かに都会には劣るものの、トータルな生活を考えれば、こちらでも結構快適な生活ができるという

うことでしょうか。町では昨年二十一世紀を目指した町の基本構想・基本計画をつくりましたが、皆さんからみ

たこれからの町づくりについて、提言や意見をお願いします。

■白田 わたしが山形の会社から通勤しますと総務担当に話したら、「朝日町ノ限りなく遠いところですね」といわれました。しかし、実際に車で通ってみると、夏は三十五分、冬でも四十五分ぐらいで行けるんですね。山形市への「地の利」は決して悪い所ではないと思います。

生活の場は朝日町で、働く場所や遊ぶ場所は山形や寒河江というように割り切ることが大切ではないでしょうか。すべての職種の企業や文化施設を朝日町につくろうとしても、それには限界があるように思います。

■榊 なぜわたしが朝日町に戻れたかと考えてみると、小さいころ魚釣りや山に行って遊んだという経験があったからじゃないかと思っています。それが、今の子供達には危険だからといって大人がさせない傾向があります。身近にある楽しい自然の遊びを許容できないのは残念です。そういう環境で育った人間が、ふるさとについてどう思うのかと考えると少し不安になります。

■布施 わたしは、気のあった仲間たちとジャズ体操を中央公民館を借りて楽しんでいます。あるとき、講師の件で行政の方に相談に行ったとき、「行政としては一つのサークルに特別な手助けをすることはできない」という答えだったんですね。確かに行政に携わる方は、全体の奉仕者であることは分かりますが、既存の画一化された組織や団体に対するサービスだけのでなく、新しくできたサークルの要望に

対するサービスにも、もう少し力を入れてほしいと思います。

「Eco情報板」を
設置しては

■倉澤 この度つくられた町の基本構想は「地球にやさしい活力のまち」「エコミュージアムのまち」などのキャッチフレーズを掲げた、時代を先取りしたす



榊 元國さん（団体職員・41歳）

放射線技師として、東京で18年間病院勤務。

3年前大谷へ帰郷。7人家族。



町づくりに対する活発な

ばらしい内容のものだと思えます。しかし、残念ながら具体的なわたしたちが見えるようなものはまだないように思います。どんな小さなことでもいいですから、やれることから実行してほしいと思います。そこで提案ですが、役場の前に大きなエコミュージアムの看板をつくってはどうか。町の自然探索コースを紹介したり、そのときの自然に関する情報を提供する「エコ情報板」のようなものです。



倉澤美津子さん（農業・48歳）

前田沢生まれ。東京で10年間の会社勤務の後結婚。8年前帰郷。現在ご主人と二人でりんごを栽培。4人家族。

もっと、私の町意識を持つてほしい

また、今ではお年寄りの方しかでなくなってしまう「ワラ細工」や「つる細工」などの後継者を今から育てておく必要があるように思います。今すぐできるものと、将来を見通して今からやるべきものの両面作戦で取り組んでほしいと思います。

■白田 二十一世紀を目指したエコミュージアムの考え方は大変素晴らしいものだと思います。でも、それが一つ一つの具体的な事業の展開となった時、どこまでその理念にあったものをつくれるか、ということが一番のポイントになるように思います。

たとえば、自然観のコテージ前に駐車場ができましたが、そのために林に囲まれたコテージの雰囲気壊れてしまったように思います。確かに駐車場の必

■司会 そうですね。毎年二回ぐらい町教育委員会が主催し、町内の自然や文化遺産などを見学する「ふるさとめぐり」が行われていますが、残念ながら参加者が少ないようです。わたしたち町民もそういうせっかくの機会に、町の良さを見直したいものです。

わたしたち町民が豊かさを実

要性は分かりますが、長い目で見た場合どうだったのでしょうか。エコミュージアムという町づくりからしてどうだったのかと考えると、とても疑問が残ります。道路や水路を整備するにしても、基本構想に書かれてある基本的考え方に合った事業展開を望みたいですね。

■小林 わたしは仕事から町内のあちこちに行きますが、結構景色のいい場所や清水のおいしい所、すごい大木とかあるんですよ。趣味がビデオカメラ撮影なんです。被写体になる自然がたくさんありますね。

町民のみなさんでも、案外町内のことを知らないのではないのでしょうか。町の中にあるすばらしいものをみんなが知って、その値打ちに気付くということ

まずは町の良さを見つけよう

■司会 そうですね。毎年二回ぐらい町教育委員会が主催し、町内の自然や文化遺産などを見学する「ふるさとめぐり」が行われていますが、残念ながら参加者が少ないようです。わたしたち町民もそういうせっかくの機会に、町の良さを見直したいものです。

■小林 まず一番大切なのは人間関係だと思います。何かの集まりの時など、その場にいる人の悪口を言うのではなく、逆にほめることができるような人間関係をつくりたいですね。

■白田 先程サークルの話がで

から町づくりが始まるように思います。

■布施 それはわたしも同感ですね。できれば景色や草花だけでなく、その土地に伝えられている昔話などを掘り起こしてみることなどもおもしろいように思います。



小林 久さん（会社員・38歳）

福島県喜多方市生まれ。横浜市を中心に16年間会社勤務。3年前奥さんの実家へ入る。7人家族。

カメラの被写体になるものがたくさんある町

■小林 結局は自分たちの町なんだから、自分たちが豊かさを実感できる町にして行かなければならないということのように思います。そのためには、町の良さをみんなで見つけていくことが大切のように思います。本日はありがとうございました。

■倉澤 女性の方はわたしも含めて、どちらかというと家庭や子供のことにだけに捕われがちで、町という意識はあまりないように思います。もっと自分たちの町なんだという意識をもつことが大切のように思います。

■司会 結局は自分たちの町なんだから、自分たちが豊かさを実感できる町にして行かなければならないということのように思います。そのためには、町の良さをみんなで見つけていくことが大切のように思います。本日はありがとうございました。

長寿を祝い賀詞贈呈

白寿 3名 米寿 30名

1月7日、町内に住んでいる白寿(99歳)と米寿(88歳)の方の長寿を祝おうと町から賀詞と記念品が贈られました。

今年めでたく白寿を迎えられた方は、白田忠太郎さん(大暮山)ら3名で明治27年生れ。一方米寿者は、明治38年生れの30名のみなさんです。



小林町長(左)と町一番の長寿者白田忠太郎さん(中央)

白寿者 白田忠太郎(國治・大暮山)
 鈴木 いつ(光吉・助ノ巻)
 安達 きち(正志・栄町)
 米寿者 鈴木 龜藏(武男・西町)
 鈴木 彌一(彌一・栄町)
 鈴木 つか(興二郎・大町)
 成原 半七(茂・大町)
 鈴木久次郎(俊一・助ノ巻)
 清野宗三郎(忠男・四ノ沢)
 鈴木キクエ(利雄・四ノ沢)
 清野 松次(豊・小原)
 佐藤 惣吉(総一郎・小原)
 佐藤キヨエ(太平・平)
 岡崎よし(修二・下戸沢)
 松尾 ひろ(亮蔵・松原)
 佐竹 ひて(恒雄・夏草)
 佐竹 ちや(天雄・八ッ沼)
 阿部 石松(正一・八ッ沼)
 大高 大助(邦雄・太郎一)
 清水 あん(ますゑ・太郎一)
 阿部 龍巳(貢・太郎一)
 長岡幸一郎(幸司・太郎三)
 長岡 政太(卯吉・石須部)
 阿部 マサ(勇・立木)
 阿部多仁太(徳雄・白倉)
 佐竹 儀七(儀一・松程)
 阿部なつる(貞廣・松程)
 武田 岩吉(功・大舟木)
 東 清一郎(東栄・大谷五)
 川村 國吉(廣志・大谷五)
 白田 庫一(慎一・大谷六)
 五十嵐あさの(光男・中沢)
 阿部源太郎(健一郎・大暮山)
 (順不同・敬称略)

町選挙管理委員の任期満了に伴い、19年の長きにわたり委員として活躍された松尾亮蔵委員長(松原)と斎藤八蔵委員長代理が勇退されました。

これに伴い、昨年の12月定例町議会において、次の4名の方を新たに選任。12月26日に開かれた選挙管理委員会の席上、委員長に今井俊助氏が互選されました。

委員長 今井 俊助(前田沢・再任・65歳)
 委員長代理 塚本 旦道(大谷二・再任・45歳)
 委員 小関 長壽(西船渡・新任・67歳)
 委員 柴田 彰亮(大町・新任・47歳)



佐竹議長より当選証書を受け取る今井委員長

選挙管理委員を新たに選任

松尾委員長勇退、新委員長に今井俊助氏

委員長
談話

この度、選挙管理委員の任期満了に伴い新たに昨年の十二月町議会に於て選挙され、

議長より当選証書をいただき、その責任の重大さに今更ながら選挙管理委員一同身が引きしまる思いです。

申すまでもなく、選挙管理委員は厳正、公正、無私でなければいけないことは当然ですが、有権者各位の絶大な御協力が必要ればその任を全うすることは出来ません。

委員会は直接的な選挙投票等に関する管理事務にとどまらず、明るい選挙推進協議会の方々と共に常時啓発にも更に

今年は参院・町長
農業委員選挙です

御不審な点は、選挙管理委員会に御照会下さるようお願いいたします。

つとめたいと思います。
 今年度は参議院議員、町長、農業委員の選挙が予想されますが「町おこしは選挙から」とも言われるように、あくまでも政策を中心にしたものでなければなりません。しかも、予想される町長選挙は朝日町始まって以来の選挙であり、衆人の注目の中で行われるものです。
 立候補予定者は勿論、有権者各位も絶対にルールを守り、今マスコミで報じられているようなみにくい逸脱した行為のないよう切に希望いたします。常には表に顔を出さず、いつも適正な管理が行われている選挙管理委員会でありたいものです。



送橋集会施設完成

1月30日送橋集会施設（公民館）の落成式が、地区民と関係者が出席して行われました。この施設は、山村林業構造改善事業の補助金を活用し建築されたもの。木造平屋建床面積173m²で総工費約2,950万円。



送橋農村公園完成

送橋公民館と村社（神明神社）の間に、このたび農村公園が完成しました。500m²の敷地内には遊具やベンチなどが整備されています。事業費は800万円。



集落道森越線(古楨)完成

古楨集落内の集落道森越線の改良舗装工事がこのほど完成しました。同線は公民館裏から果樹園に延びる道路で幅員4m、延長285m。事業費は6,620万円。



松程農村公園完成

このほど松程集落内に農村公園が完成しました。1000m²の敷地にはジャングルジムやブランコなどの遊具はもちろん、トイレも設置されるなど大変使いやすい施設です。総事業費は1,150万円です。

3/2より

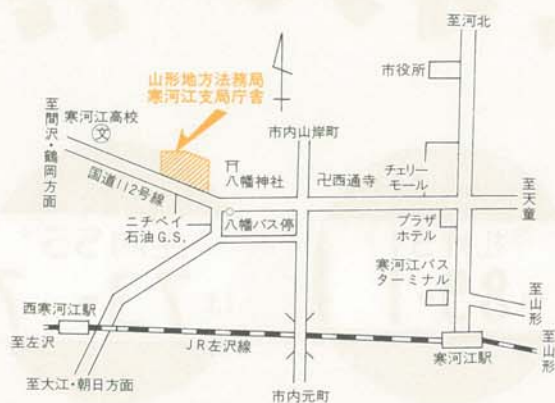
法務局朝日出張所を 寒河江支局に統合

朝日出張所を今年3月2日付けで寒河江支局に統合いたします。この統合に伴い、同日以降朝日町に所在する土地、建物及び会社法人等の登記事務は寒河江支局で取り扱うことになりますのでご注意ください。

統合によって住民の皆さんには若干のご不便をおかけいたしますが、登記事務の適正、迅速処理に努めるなど一層の行政サービスの向上を心がけますので、ご理解とご協力をお願いいたします。なお、寒河江支局の所在地は下記の場所です。

〔寒河江支局のご案内〕

〒991 寒河江市八幡町7-12 TEL (86) 3258・3259



西船渡地区の申告相談風景



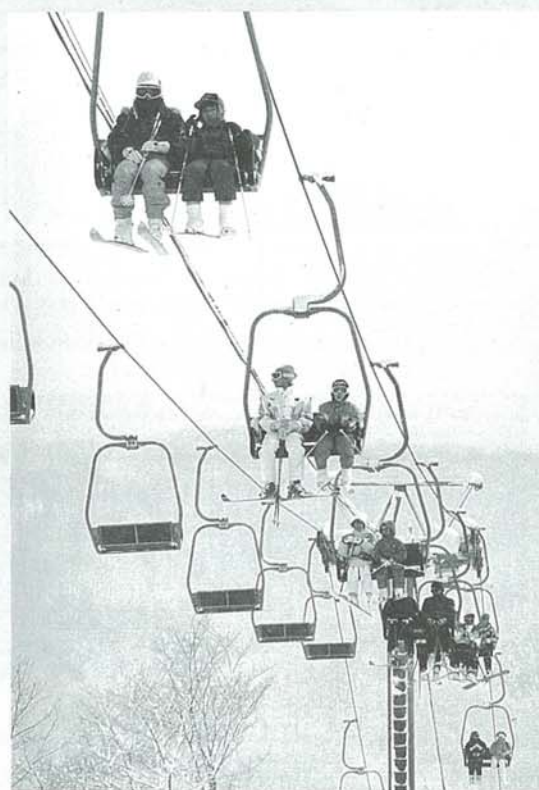
今年も町・県民税の申告時期になりました。町では、税務課職員が二月一日より各集落に出向き申告相談に応じています。平成三年分の所得税の確定申告は、二月十六日から三月十六日までとなっています。必要の方は期限まで忘れずに申告を行いましょ。相談日については、先のお知らせ板でお知らせしています。もう一度確認し、忘れないようご注意ください。なお、税金についてご不明な点は役場税務課（☎67-2111）までお問い合わせください。

町・県民税申告相談実施中

税金の申告は早めに!!



ポンチョ姿がきまってるネ!



ペアリフトもフル稼働でスキーヤーを運ぶ



深雪もなんのその



ジョイフル・スキーング
(楽しい)

1月のある日曜日

Asahi自然観スキー場を

スキーも付けず、歩いてみました。

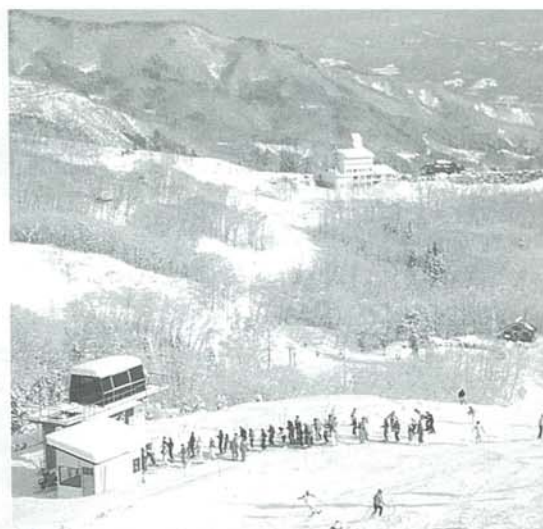
今年は町外の若者たちの姿が特に多くみかけられるようです。

観は大にぎわい!!

上 (大地前の駐車場)



スキースクールのレッスン風景
(ファンタジーゲレンデ)



ハートピアゲレンデから雄大な
パノラマをのぞむ



パワフルスキーイング



スキーのあとはビールで乾杯!! (今シーズンから営業した「大空」)

冬、自然

ほんの一部ですが、こんなに全国各地からスキーヤーが集まりました



今年は人気急上昇のスノーボード (エアートップゲレンデ)



町民の ひろば



(金福漢 29歳・韓国)
キム・ボクハン

ひとこと
トーク

お別れメッセージ

『近くて遠い隣国』 日本

日本青年奉仕協会派遣
アジアボランティア青年

不安の中でスタートした私のボランティア活動。この八カ月間をふり返ってみると様々な事が頭をよぎります。八カ月の活動を病気やケガひとつ無く無事

終了できた事が何より良かったと思います。

始めの生活は怖かったです。

顔なじみがないし、しゃべる人いないし、おばけが出るみた

熊谷あゆさん(宮宿小六年)

郵政大臣賞を受賞

第41回
全日本年賀状版画コンクール



大臣賞受賞作品とあゆさん(右)

郵政省主催の第41回全日本年賀状版画コンクールで熊谷あゆさん(宮宿小六年・前田沢)が、最高の郵政大臣賞に輝きました。このコンクールは全国の幼児から大人までの作品約五万点が出品されたもので、小学校高学年(四年から六年)の部門で最

高賞を受賞したものです。作品は、あゆさんの得意な鉄棒で逆上がりしようとかがんばっている自分の姿を描いたもの。表情がいきいきと表現されている秀作です。「歯の間の色を出すのに苦労しましたが、顔の色がうまくいったので満足できる作品です」と話すあゆさんですが、受賞の知らせを聞いた時は、声も出ないほどびっくりしたとか。一月七日にお父さん(良夫さん)と担任の古沢先生と一緒に上京し、郵政大臣から直接賞状と記念品をいただきました。

宮宿小学校のみなさんの他に和合、立木、水本の各小学校の

児童のみなさんが数多く入選されました。

▼郵政大臣賞

熊谷あゆ(宮宿小六年)

▼NHK学園賞

大井由美(立木小六年)

▼入選/岡崎和也(水本小一年)

伊藤俊介(水本小二年)

阿部 滋(立木小五年)

佐藤 淳(和合小六年)

菅井拓也(和合小六年)

高沢浩二(和合小六年)

柴田由紀(宮宿小六年)

▼佳作/伊藤和弘(水本小一年)

吉田佳樹(水本小四年)

多田苗生美(宮宿小六年)

鈴木壽幸(和合小六年)



沼部 佳くん (3年)
あき見 佳ちゃん (6歳)
沼部 昭さん (65歳)

ぼくのおじいちゃん

ぼくのおじいちゃんは、とてもはたらき者です。雪がきえる、と、朝5時おきして、しごとにでかけます。ふつうは、夕方5時30分ごろに帰ってくるのに、夏の日の長いころは7時30分ごろに帰ってくる時もあります。それにじゅくや歯医者のは、いつも車でおくったり、むかえに来てくれたりもします。ぼくは、おじいちゃんがだいすきです。やさしいおじいちゃん長生きして下さい。



さゆり保育園の園児とキムさん



宮宿小学校で折り紙の特別授業

いな家で自炊生活をしました。山ばかりの町、朝日町。自然の中の三つの保育園で子供たちと一緒に折り紙をおったり、韓国語をおしえたり、料理をつくったり楽しい毎日でした。ちよつぱり国際交流をやっているのかなと感じ、充実した日々を過ごせました。

言葉の問題があつて、バカみたいになった事も多かったのですが、一年間日本で過ごしてみても私自身とても貴重な体験をして大きく成長できました。これからの私の人生に、ひとつの方向を与えられたように思います。よく日本と韓国は「近くて遠い隣国」と言われてきました。と言うのは両国の文化、歴史、社会的背景のためだと思われま

韓国の連絡先

自宅

韓国仁川市南東区萬寿洞

977-38 永 BIL-RA NA の202号

TEL (032) 427-8554

FAX (032) 866-0974

ボランティア事務所

ソウル市西大門区大新洞16-21(3F)

「愛の友 UREE」 TEL (02) 363-5712

結び付きが深まる事を、そしてそれが相互の発展につながるように心から期待します。「近くて近い国」になるために……。

そして、朝日町で出会った皆様に心からの感謝を申し上げます。また会いましょう。

韓国にいらつしやうった折は、連絡を下さい。お待ちしております。



五郎「四ノ沢に入ったぞー砂見坂だー五郎八の前だー小学校前だ」

小学校前で車を止め、親爺を起して顔を校舎に向けるが、ほとんど見えない様子。

午後四時、寺前の駐車場着。

親爺「どこだ」

五郎「福昌寺だ」

親爺「寺の水呑む」

四郎が親爺をおんぶする。親爺の身体グニャグニャ。眼開かず。墓前に立つ。おちうさんがローソクと線香の準備。爺の顔から血の気失せ、生色なし。

静「お爺ちゃん、頑張つて」

〈爺の話ー重蔵一代より〉

ふつと
人国記
22

柴田重蔵

名家「六角」最後の家長

この本は、昭和六十年に重蔵の五男、五郎が編集出版したもので、妻ふみの墓参りに帰りたい親爺を看病しながら、宮宿へ帰る場面は感動的である。東京都町田市の五郎宅を朝五時半に出発。弱ってくる親爺を励ましなが宮宿に到着するまでの道中記は、読む人の涙を誘う。

重蔵は明治二十三年四月、宮宿の地主柴田角蔵氏の長男として生れる。通称「六角」の御曹子であった彼は、長じて謡曲と尺八、草履表の製造、トマト栽培導入、桑の木剪定の奨励等、地区の先覚者の役割を果たした。書道の大家でもあり、弓道五段の腕前をもっていた。

大正後半からの不況によって繭の仲買業も損害をうけ、柴田家は衰運の一途をたどった。病気の重蔵を看病しつづけた妻が昭和四十二年に急死。孤独になった彼は家を解体し、息子らの家で晩年を過ごす。昭和五十四年二月三日逝去。八十九歳。

文・杉ひさし



“思いっきり躍動21世紀の主役たち” べにばな国体へ初参加

デモスポ行事



「歩くスキー」は さわやか



疲れてちょっとひと休み(?)の参加者

「思いっきり躍動21世紀の主役たち」をスローガンとした第47回国民体育大会「べにばな国体」冬季大会スケート・アイスホッケー競技が一月二十六日から二十九日までの四日間開催されました。同時に県民を対象としたデモンストレーション行事のトップをきつて、二十六日「歩くスキー大会」が最上町で行われました。

大会には県内からおおよそ三千四百人が参加。町からは堀浩彰さん(真中)ら十名が参加しました。前日降った新雪がまぶしい絶好のコンディションの中三キロ、五キロ、十キロのコースに分かれて挑戦しました。本町から参加したみなさんは、ほとんどがクロスカントリー用のスキーを履くのが初めてという方々。スタート直後は平地でも転びながらの悪戦苦闘でしたが、次第に慣れてくると、霧氷の景色を眺めたり、応援の人に手を振る余裕もできた様子。

競技終了後は、地元が準備してくれた「なめこ汁」や「甘酒」に舌鼓を打ち、冬の大自然を存分に味わいました。

社会体育係では、これを機会にだれでも気軽にできる、歩くスキーの普及を図りたいとほりきっています。

最近では、ほとんど見られない機織りを食い入るように見る少年たち



「日本語教室～漢字編～」

漢字の勉強は楽しく

国際結婚ライフセミナー

「子供が保育園から持ち帰るお便りを読みたい」という母さんたちの要望に応じて1月30日、町中央公民館で「国際結婚ライフセミナー日本語教室漢字編」が開催されました。

当日は四組のフィリピンからきた花嫁さんと子供たち、それにおとうさんたちが参加。お母さんたちは、町立和合小学校の多田秀人先生を講師に漢字の勉強を行いました。その間お父さんたちは、羽陽女子短期大学講師の千田久子先生の指導の下、子供達を相手にゲームなどをして親子の触れ合いを深めました。

また、最後にはティータイムを設け日常生活の悩みや解決策についての話し合いも行われました。



ユーモアを混ぜての楽しい勉強

「五百川つむぎ」の美しさにびっくり

松程

少年たちが機織りを見学

朝日町でもめずらしい機織りを、ナチュラリストクラブの子供達が見学してきました。

機織りをしているのは松程の白川きぬさん。白川さんは六年前まで自宅で育てたマユからとった絹を毎日のように織っています。子供達は初めて見る絹の美しさや、縦糸を千二百本も通すという細かい作業に驚き、熱心に見入っていました。機は昔から白川家に二台あった物の一台で、もう一台は県立博物館に寄贈されたという古いものだそうです。「今、孫のアンサンブルを織っているんだ」と言う白川さんは、七十八歳とは思えない程若々しく、とても楽しそうにお話をして下さいました。松程には他にも、阿部光子さん、阿部このえさんが機織りをするということで、「五百川つむぎ」と言われる伝統を現在でも守り続けています。



レーザーカラオケを楽しむおしどり会

曲淵は、立木地区の手前朝日川が大きく蛇行した高台に位置する九戸の小さな集落です。しかし、中学生までの子供の数は十五名と戸数の割合にしては多く、五月ともなると各戸にこいのぼりの泳ぐ風景があちこち見られます。

また、朝日自然観のふもとに昨年新築された、町立立木小学校にも二十一世紀を担う七名の児童が通学しており、区民の大きな期待が寄せられています。

カラオケで新たな「ミニミニケーシミン」

曲 淵

また、対話と魅力ある集落づくりを進めるため、若い夫婦による「おしどり会」が結成されました。忙しい中にも子供同伴の一泊旅行を行うなど互いの親睦と融和を図っています。

さらに昨年の十二月には、全戸からの寄付をもとに、六十万円もするレーザーカラオケセットを購入しました。現在では、地区行事の終了後などに多くの区民が蔵を改造した特設スタジオに集まり、自慢ののどを披露し合っています。歌と楽しい会話で地区民の新たなコミュニケーションの場となっています。

(長岡典巳 広報委員)

結成10年目の快拳 東北大会初出場

宮宿ミニバスケットスポーツ少年団

昭和57年に結成された宮宿ミニバスケットボールスポーツ少年団が、10年目の節目の年に初の東北大会出場を果たします。

同団は清野久憲(四ノ沢)監督のもと、3年生から6年生まで28名が週3回宮小体育館で練習を行っています。昨年秋の県大会女子の部で堂々3位に入賞。3月28日から30日まで福島市で開催される、第11回東北地区スポーツ少年団ミニバスケットボール交歓大会に出場するものです。キャプテンの成原知(前田沢)さんは、「大会には県内から男女それぞれ3チームが出場しますが、山形県の代表としてはずかしくない試合ができるよう精一杯がんばります」と力強く話してくれました。



東北大会での活躍が期待される宮宿ミニバスケット少年団のみなさん



に新たな付加価値

「ガットりんご」を生産販売

清野忠市さん(古楨)ら開発

りんごの皮をむき一口サイズにカットした「ガットりんご」が今注目されています。りんごの皮をむいてそのままにしておくと赤茶色に変色しますが、このカットりんごは一カ月間は変色することなく、むきたての状態で保存することができるといいます。

このアイデアを考えたのは、清野忠市さん(古楨)と佐藤太平さん(平)の二人。清野さんが汽車に乗っているとき、みかんは売っているがりんごは売りに来ない。皮がむかれたりんごなら汽車でも販売できるのではないかと考えたのが始まり。二年前から本格的に研究をはじめ、試行錯誤を繰り返しながら、ようやく商品として売り出したものです。

皮をむいてしんととり、細かくカットした上で、特性の液体に浸しパック詰めにするもの。



衛生面に気をつけながらのパック詰め作業

既に、栃木県の学校給食会などに給食のデザートとして出荷。一週間から十日ぐらいいは生食同様の味が保てるので、町特産のおいしい無袋ふじりんごが食べられると、なかなか好評のようです。また、キズりんごなどの二級品の新たな販路が開けるのではと期待が高まっています。



朝日中学校に導入されたパーソナルコンピューター

ファミコン世代

子どもたちの遊びの中で、ファミコンやゲームボーイなど、電子ゲームの遊びに大変人気があります。一時期のブームは去りましたが、「テレビ画面の見過ぎが目が悪い」とか、「ひとりぼっちの遊びになりやすい」などの大人の声にもかかわらず、今も人気はおとろえていません。

「石けり」や「鬼ごっこ」をして遊んでいた世代の人たちから見ると、もともと自然の中でみんなと遊んでほしいという声が聞こえてきそうです。

しかし、単にファミコンが悪いと決めてしまうのではなく、情報化が進む今の社会に目を向けることも必要です。

今は、電卓などをもっていることは当り前で、中学校で統計の分野を学習するときはかかせないものになってきています。中学校の何クラスかの生徒に聞いたら、ファミコンなどの電

子ゲームをもっている生徒は約七割、ワープロやパソコンがある生徒が約四割で、自分でワープロを使って文書をつくる生徒も多くなっています。

また、パソコンに興味があり、自分で操作してみたいと思っている生徒は約七割もいました。子どもたちにも今の社会の流れは確実に反映してきています。

ワープロとパソコン

最近では、どの会社や職場にもワープロ（ワード・プロセッサ）やパソコン（パーソナル・コンピュータ）、FAX（ファクス）などのOA機器（オフィス・オートメーション）がはいっています。

十年ほど前のワープロは、実用にはほど遠い代物でした。それが最近では「ワープロがなければ仕事にならない」と言われるほど活用されています。

今のワープロの性能は、十年前の百万円以上の業務用ワープロをしのぐほどになってきています。ちょっと前までは「ワープロなんて」と言っていた方もいったん使い始めると、「便利だ

和合小が ダブル優勝

町小体連スキー大会



第十一回町小体連スキー大会が一月三十一日、朝日自然観スキー場ファンタジーゲレンデで行われました。

大会には、町内の小学六年生と複式学級の五年生男女百八十五名が参加。男女に分かれ、21度の急斜面に果敢に挑戦しました。成績は次のとおりです。

■男子回戦／①佐藤 淳（和合小）②岡崎 稔（水本小）③布施勝英（宮宿小）④阿部正芳（西小）⑤布施和行（宮宿小）⑥阿部宗広（西小）⑦伊藤 浩（水本小）⑧佐藤康弘（上郷小）
■女子回戦／①佐藤浩子（和合小）②佐藤千恵美（和合小）③清野早苗（送橋小）④川口純子（大暮山分校）⑤鈴木美恵子

パソコンが やってきた！ 情報化社会に向けて

さっそく授業にとり入れられ
パソコン学習に関心が集まる



ね！」と手放せなくなる例も多いようです。「使ってみようかな？」と思っていられつしやる方はぜひチャレンジされてみてはどうでしょうか。

パソコンは、ワープロと似ていますが、拡張性と発展性の点で大きく違います。ワープロは文書の作成が主で、表計算やデータベース(資料の体系化)、画像処理などは得意ではありません。それに対してパソコンは、ソフト(ソフト・ウェア)プログラムに関することの全体)によって、色々な機能をもたせることが可能で、その処理能力もワープロを上回ります。それだけに機器の設備にお金がかかり、うまく使いこなすには、基礎的な知識と訓練が必要になってきます。

パソコンと中学校

情報化社会といわれる今、情報活用の学習のために、各学校にもパソコンが導入されはじめています。

中学校では、技術・家庭科の「情報基礎」を中心に、「パソコンのしくみ」、「パソコンの利用

のしかた」など基本的なパソコンのあつかい方を学習していくこととなります。簡単なプログラミング(プログラムを作ること)もここで学びます。

パソコンが話題になった初期の頃は、パソコンと生徒の個別学習で、先生の代わりになると考えられたりもしました。しかし、現在では、このような利用法ではなく、各教科での授業を効果的に進めるために活用されようとしています。

朝日中学校では

朝日中学校にはこれまで、事務処理、研修用として一台のパソコンはありましたが、今年度の一月に教師用と生徒用を合わせて十台が入りました。さらに、平成四年度中に十台が追加され、合計二十台の設備が整い、クラス生徒二人に一台のパソコンを使うことができるようになります。

パソコンの教室は、昨年二階の教室を全面改装し、さながら都会のオフィスを思わせるような明るい部屋になっています。また、朝日中学校のパソコン

システムは他の学校にないLAN(ローカルエリア・ネットワーク(地域情報通信網))と呼ばれるシステムを備えていて、教師用のパソコンを中心に各生徒用のパソコンが結ばれています。このシステムを使って、プログラムや画像の転送が可能になり、より効率的な学習ができるようになっていきます。

この十台が入って間もなく、三年生に授業で使ってもらいました。天文シミュレーション(模擬実験)のソフト一種類しか使えませんでした。みんな目を輝かせパソコンに夢中になっていました。

「すごくおもしろかった。」
「わくわくした。」
「オリオン座を最後に見つけることができてよかった。」
「小さなフロッピー(フロッピー・ディスク)で、どうしてもなんなことができないのか不思議だ。」
「もつと色々なフロッピーで授業をしたい。」

先生よりもパソコンに詳しいパソコン博士の誕生も期待できそうです。

(教育広報委員・熊谷昌彦)

(西小) ⑤鈴木美佳(和合小)
⑦土屋みゆき(水本小) ⑧阿部あゆみ(西小)

風づくりに挑戦

いもがわ少年教室

風づくりを通して親子の触れ合いを持つと一月二十一日、青少年育成センターで「いもがわ少年教室」が開催されました。

当日は佐竹瑞穂さん(夏草)の指導のもと、二十三名の参加者が慣れない手つきで竹ひごを削ったり、絵を描いたり思い思いに風づくりに挑戦しました。

また、子供達は重い杵を力一杯振り上げての餅つき大会も行うなど、冬の日を親子で楽しみました。



親子で風づくりに挑戦



●西 町／安藤 真一さん
早苗さん

さやちか
新婚さん

早苗さんと同じ職場の真一君は、元気でほがらかな彼女に一目惚れ。海へのドライブをきっかけに二人の仲は急接近！東京ディズニーランドやコンサートに行っては愛を育み、今年の正月にめでたくゴールイン。

新婚旅行は沖縄へ。二人の時間を台風
に邪魔されたので、またいつか行きたい
とか。

彼いわく、彼女の作る鶏の唐揚げは日本一。子供は何人でも欲しいという二人は、笑い声の絶えない明るい家庭をつくりたいと話してくれました。

(鈴木高光 広報委員)

人口と世帯数

●平成3年12月31日現在

人 口	10,501 (△15)
男	5,204 (△6)
女	5,297 (△9)
世帯数	2,565 (△1)

●平成4年1月31日現在

人 口	10,497 (△ 4)
男	5,203 (△ 1)
女	5,294 (△ 3)
世帯数	2,562 (△ 3)

() 内前月比



すこやかに

(出生届)

平成3年12月1日～12月31日届出

区名	出生児氏名	父名
常盤	齊藤 椋太	裕一
西町	長岡 美濤	裕二
大谷一	安藤 玄太	竜二
助ノ巻	鈴木 和人	俊治
四ノ沢	清野 智佳	則昭
太郎一	長岡 愛子	伸幸
大暮山	川口 愛梨	幸男
大暮山	川口 祐美	幸男
小原	鈴木 愛央	勝治
大滝	柴田 由香	和正
大隅	菅井 健	千代太

平成4年1月1日～1月31日届出

大谷三	菅井 大貴	勝典
太郎三	後藤 俊輝	廣



おしあわせに

(婚姻届)

平成3年12月1日～12月31日届出

助ノ巻 白鷹町
富樫 一幸 ♡ 小関 明美
西 町 東根市
安藤 真一 ♡ 長瀬 早苗



やすらかに

(死亡届)

平成3年12月1日～12月31日届出

区名	死亡者氏名	世帯主
宿	佐藤 ひろ	信 一

元町	渡邊きみ江	幸榮
大船木	佐藤 利夫	孝
西町	大竹 政治	賢一
太郎三	長岡りやう	行雄
大滝	柴田きよの	正彦
大滝	柴田 よし	作太郎
小原	菅井 ゑい	正好
前田沢	布施カメノ	兼松
中沢	堀 なつゑ	弥作
杉山	安藤 かつ	勇
下芦沢	大滝 兵太	芳
常盤	阿部たみ子	勲
平成4年1月1日～1月31日届出		
立木	阿部小三郎	二郎
中沢	堀 多七	勇六
水本	岡崎 藤祐	時夫
高田	鈴木けさゑ	ひで子
舟渡	遠藤 きゑ	理
大隅	鈴木 重郎	文夫
今平	阿部 正男	正敏

●(財)朝日町育英会へ寄付

山形市下条町の佐竹好三さんより十万円ご寄付いただきました。ありがとうございます。



●朝日町社会福祉協議会へ寄付
太郎一の長岡仙太郎さんより
五千円いただきました。ありが
とうございました。

春夏秋冬

編集後記

▼広報「あさひまち」が昨年に続き県広報コンクールで特選を受賞。また同時に、組写真部門でも四月号の「スケッチ春物語」が特選をいただきました。これもひとえに町民のみなさんのご支援の賜物と感謝申し上げます。これからも、広報委員、編集子一同より親しまれる広報紙をめざしががんばりますので、よろしくお願いします。▼今月号の特集は、Ｕターン者による座談会

を行いました。出席者は都会で結婚、子育てなどを経験し、いろいろな都合で町に帰っていらつしやったみなさんです。いわば働きざかりのみなさんが、都会と田舎の暮らしを比較しながら、これからの町づくりに、提言をしようと企画したものです。この特集についての感想、ご意見などがありましたら係までお寄せ下さい。お待ちしております。

(K)